# 製品安全データシート

## [製品名]　ガスケット・パッキン用焼付き防止スプレー　e.CLEAR#4000

### 1．化学物質等及び会社情報

[製品情報]

製品名：　e.CLEAR#4000
一般名：　ガスケット・パッキン用焼付き防止スプレー
概　要：　無機鉱物をベースとした焼付き防止スプレー

[製造者情報]

会　社　名：　ジャパンマテックス株式会社
所　在　地：　大阪府泉南市りんくう南浜 4－33
担当部門　：　品質管理課
電話番号　：　072－485－1001
F　A　X　：　072－485－1116
緊急連絡先：　072－485－1001

[販売者情報]

会　社　名：　ジャパンマテックス株式会社
連　絡　先：　072－485－1001

### 2．組成、成分情報

単一製品、混合物：混合物

| 成分名・化学名 | CAS 番号 | 官報公示整理番号 | 安衛法通知対象物 | ＰＲＴＲ法 2) | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 第一種 | 第二種 |
| 合成樹脂 | － | | 非該当 | | |
| エタノール | 64-17-5 | | 該当 | | |
| イソプロピルアルコール | 67-63-0 | | 該当 | | |
| メチルエチルケトン | 78-93-3 | | 該当 | | |
| 無機物質 | － | | 非該当 | | |
| 二酸化ケイ素 | 7631-86-9 | | 該当 | | |
| ジメチルエーテル（噴射剤） | 115-10-6 | | 非該当 | | |

1）労働安全衛生法　2）特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律

### 3．危険有害性の要約

重要危険有害性及び影響

GHS 分類

**物理化学的危険性**

| | |
|---|---|
| 火薬類 | 分類対象外 |
| 可燃性・引火性ガス | 分類対象外 |
| 可燃性・引火性エアゾール | 区分 2 |
| 支燃生・酸化性ガス | 分類対象外 |
| 高圧ガス | 分類対象外 |
| 引火性液体 | 区分 2 |
| 可燃性固体 | 分類対象外 |
| 自己反応性化学品 | 分類できない |

（続く）

3. 危険有害性の要約（続き）

| | |
|---|---|
| 自然発火性液体 | 区分外 |
| 自然発火性固体 | 分類対象外 |
| 自己発熱性化学品 | 分類できない |
| 水反応性可燃性化学品 | 分類できない |
| 酸化性液体 | 分類できない |
| 酸化性固体 | 分類対象外 |
| 有機過酸化物 | 分類できない |
| 金属腐食性物質 | 分類できない |

**健康に対する有害性**

| | |
|---|---|
| 急性毒性（経口） | 分類できない |
| 急性毒性（経皮） | 区分 5 |
| 急性毒性（吸入：ガス） | 分類できない |
| 急性毒性（吸入：蒸気） | 分類できない |
| 急性毒性（吸入：粉塵、ミスト） | 分類できない |
| 皮膚腐食性・刺激性 | 区分 3 |
| 眼に対する重篤な損傷・刺激性 | 区分 2A |
| 呼吸器感作性 | 分類できない |
| 皮膚感作性 | 分類できない |
| 生殖細胞変異原性 | 区分 1 |
| 発がん性 | 区分 1A（二酸化ケイ素） |
| 生殖毒性 | 区分 1 |
| 授乳に対する影響 | 分類できない |
| 特定標的臓器・全身毒性（単回曝露） | 区分 1　呼吸器系、人造、中枢神経系、全身毒性 |
| | 区分 3　気道刺激性、麻酔作用 |
| 特定標的臓器・全身毒性（反復曝露） | 区分 1　呼吸器系、腎臓、肝臓 |
| | 区分 2　神経系、血管 |
| 吸引性呼吸器有害性 | 区分 2 |

**環境に対する有害性**

| | |
|---|---|
| 水生環境有害性（急性） | 分類できない |
| 水生環境有害性（慢性） | 分類できない |

GHS ラベル要素（絵表示）

## 4. 応急措置

吸入した場合 ：蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、呼吸しやすい姿勢で安静、保温に努める。呼吸が不規則か止まっている場合には人工呼吸を行う。嘔吐物は飲み込ませないようにする。直ちに医師の診断、手当てを受ける事。

皮膚に付着した場合 ：直ちに全ての汚染された衣類を取り除くこと。付着物を布にて素早く拭き取る。大量の水と石鹸又は皮膚用の洗剤を使用して充分に洗い落とす。溶剤、シンナーは使用しない事。ガスの付着を受け、凍傷となった場合には衣服は脱がせず、そのまま多量の水または温水で洗い流す。皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受ける事。

眼に入った場合 ：直ちに清浄な大量の水で 15 分以上洗い流す。まぶたの裏まで完全に洗う事。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師の診断、手当てを受ける事。

飲み込んだ場合 ：口をすすぐ事。医師の診断、手当てを受ける事。被災者に意識が無い場合は、口から何も与えてはならない。医師の指示による以外は無理に吐かせない事。

最も重要な兆候及び症状：特になし

応急措置をする者の保護：救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。火気に注意する。換気を行う。

医師への特別注意事項 ：特になし

## 5. 火災時の措置

消火剤 ：泡抹消火剤、耐アルコール性泡消火剤、炭素ガス、噴霧水

使用してはならない消火剤：水（棒状水、高圧水）

危険有害性 ：火災の現場にエアゾール容器があると、破裂する恐れがある。火災時の燃焼により一酸化炭素等の有害ガスが発生するため、煙の吸入を避ける。内容液は極めて燃え易く、熱、火花、火災で容易に発火する。

特有の消火方法 ：作業は風上から行い、関係者以外の立入りを禁止する。可燃性の物を周囲から素早く取り除くこと。指定の消火器を使用すること。火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがあるので消火活動には距離を十分に取り、高温にさらされる製品容器には水等をかけて冷却する。火災発生場所周辺に関係者以外の立入りを禁止する。

消火を行う者の保護 ：消火者は必ず適切な保護具（保護眼鏡、保護衣等）を着用し、有害ガスが発生するため空気呼吸器等を装備する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項 ：曝露防止のため、作業の際には適切な保護具（保護手袋、保護具及び緊急措置保護マスク、エプロン、保護眼鏡等）を着用する。漏れ発生時（噴出時）には風上より処置を行うようにし、容器の漏出部は上向きにし、完全にガスを噴出させてから処置する。漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。付近の着火源、高温体及び可燃物を素早く取り除き、風下の人を避難させ、関係者以外の立入りを禁止する。着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。密閉した場所に入る前に換気を行う。回収作業においては火花を発生しない安全なシャベル等を使用する。

環境に対する注意事項 ：漏出液を下水や側溝等に流してはならない。河川等に排出され、環境へ影響を起さない様に注意する。漏出液を密閉式の容器に集め、乾燥砂、土、ウエス等に吸収させて回収する。回収するには清潔な帯電防止工具を使用する。付着物、廃棄物等は関係法規に基いて処置すること。

二次災害の防止策 ：付近の着火源を速やかに取り除くとともに消火剤を準備する。漏出物の上をむやみに歩かない。火花を発生しない工具を使用する。蒸気発生の多い場合は、噴霧注水で蒸気発生を抑制する。また、近傍での喫煙、花火等の禁止厳守のこと。

## 7. 取扱い及び保管上の注意（関連法規に準拠して作業すること）

[取扱い上の注意]

技術的対策 ：使用時には、使用者にかからないように風の流れを背後から受けるようにすること。周辺で火気、スパーク、高温物の使用を避ける。火災に向かって噴射してはならない。温度が高くなる場所に置くと、容器が破裂する恐れがある。容器を転倒させる、落下させる、衝撃を加える、又は引きずる等の取扱いをしてはならない。

局所廃棄・全体換気 ：取扱いの場合は、局所廃棄内または全体廃棄設備のある換気の良い場所で取り扱う。

注意事項 ：密閉された場所における作業には、十分な局所廃棄装置を付け、適切な保護具をつけて作業すること。作業中は静電気対策を行い、作業衣、作業靴等は通電性のものを着用し、使用機器は確実にアースをとる。電気機器類は防爆型を使用する。

安全取扱い注意事項 ：蒸気の吸入、皮膚への接触を避ける。皮膚、粘膜または着衣に触れたり、眼に入らぬように保護具を着用する。

[保管上の注意]

適切な保管条件 ：幼児の手の届かないところに置くこと。直射日光を避け、通風の良いところに保管する。缶が錆びて内容物が漏出、または噴出する恐れがあるため、水回り等の湿気の高いところでの保管は避けること。火気、熱源から遠ざけて保管する。強酸、酸化性物質、強アルカリとの接触を避ける。40℃以上になるところには置かないこと。その他、消防法、労働安全衛生法等の法令に定めることに従う。

安全な容器包装材料 ：高圧ガス保安法等の法令で規定されている容器を使用する。

## 8. 曝露防止及び保護措置

曝露許容濃度

| 成分名 | 管理濃度 | 許容濃度 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 日本産衛学界 | ACGIH（TLV-TWA） | ACGIH（TLV-STE） |
| 合成樹脂 | 2mg/m³（吸収性粉塵）<br>8mg/m³（総粉塵） | 設定なし | 設定なし | 設定なし |
| エタノール | 1000ppm | 設定なし | 1000ppm | 設定なし |
| イソプロピルアルコール | 200ppm | 最大 400ppm | 200ppm | 400ppm |
| メチルエチルケトン | 200ppm | 200ppm | 200ppm | 300ppm |
| 無機物質 | 2mg/m³ | 設定なし | 設定なし | 設定なし |
| 二酸化ケイ素 | 0.03mg/m³ | 設定なし | 設定なし | 設定なし |
| ジメチルエーテル（噴射剤） | 設定なし | 設定なし | 設定なし | 設定なし |

設備対策 ：取扱い設備は防爆型を使用する。静電気放電に対する予備措置を講ずること。排気装置を付けて、蒸気及びガスが滞留しないようにする。取扱い場所の近くには、高温、発火源を置かないこと。取扱い場所の近くに、安全シャワー、手洗い、洗顔設備を設け、その位置を明瞭に表示することが望ましい。屋内作業所で使用する場合は、発生源の密閉化又は、局所排気装置の設置等の対策を実施する。

保護具 ：必要に応じて着用する。

呼吸器の保護具 ：有機ガス用防毒、空気呼吸器、密閉された場所では送気マスク。

手の保護具 ：有機溶剤及び化学薬品が浸透しない材質の手袋。

眼の保護具 ：保護眼鏡（ゴーグル型が望ましい）。

皮膚及び身体の保護具 ：保護衣（取り扱う場合には皮膚を直接曝さない様な、また化学薬品が浸透しない材質の衣類を着用）、保護長靴等。

適切な衛生対策 ：この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない事。取扱い後はよく手を洗う事。

## 9. 物理的及び化学的性質

| | 内容液 | 合成樹脂 | エタノール | イソプロピルアルコール |
|---|---|---|---|---|
| 状態 | 液体 | 粉末 | 液体 | 液体 |
| 色調 | 灰色粉体分散液 | 白色 | 無色透明 | 無色透明 |
| 臭気 | アルコール臭 | 無臭 | 特有の芳香 | 刺すような臭い |
| 比重 | 0.83 | 0.4 | 0.78 | 0.79 |
| 沸点 | 78.3～2230℃ | 140℃（軟化点） | 78.32℃ | 83℃ |
| 引火点 | -9℃（密閉式）（MEK として） | データなし | 13℃（密閉式） | 11.7℃（密閉式） |
| 発火点 | データなし | 370℃ | 439℃ | 456℃ |
| 爆発範囲 | 1.8～19.0vol% | データなし | 3.3～19.0vol% | 2.0～12.0vol% |
| 蒸気圧 | データなし | なし | 5.878kPa（20℃） | 4.4kPa（20℃） |
| | メチルエチルケトン | 無機物質 | 二酸化ケイ素 | ジメチルエーテル |
| 状態 | 液体 | 粉末 | 粉末 | 大気圧下：ガス状<br>圧力容器内：液状 |
| 色調 | 無色透明 | 白色 | 白色 | 無色透明 |
| 臭気 | 特異臭 | なし | なし | やや甘味臭 |
| 比重 | 0.805 | 2.65 | 2.2 | 0.724 |
| 沸点 | 80℃ | データなし | 2230℃ | -24.8℃ |
| 引火点 | -9℃（密閉式） | 不燃物 | 不燃物 | -42.2℃ |
| 発火点 | 505℃ | なし | なし | 305℃ |
| 爆発範囲 | 1.8～11.5vol% | なし | なし | 3.4～18.0vol% |
| 蒸気圧 | 10.5kPa（20℃） | なし | なし | 0.531MPa（40℃） |

## 10. 安全性及び反応性（製品として）

| | |
|---|---|
| 安定性 | ：40℃以上になると缶破裂の恐れがある。<br>常用温度で缶内圧は約 0.36MPa。 |
| 危険有害反応可能性 | ：通常の条件では危険有害な反応は起こらない。 |
| 避けるべき条件 | ：高温多湿な場所での保管及び火気近くでの使用。加熱。珪酸、強アルカリ、酸化性物質との接触を避ける。 |
| 危険有害な分解生成物 | ：燃焼すると一酸化炭素等の有害ガスが生成する恐れがある。 |
| その他の有害性情報 | ：蒸気及びガスは引火して爆発する恐れがある。 |

## 11. 有害性情報

急性毒性

| | |
|---|---|
| 経口 | 分類できない |
| 経皮 | 区分 5 |
| 吸入：ガス | 分類できない |
| 吸入：蒸気 | 分類できない |
| 吸入：ミスト | 分類できない |
| 皮膚腐食性・刺激性 | 区分 3 |
| 眼に対する重篤な損傷性／刺激性 | 区分 2A |
| 呼吸器感作性 | 情報なし |
| 皮膚感作性 | 情報なし |
| 生殖細胞変異原性 | 区分 1 |
| 発がん性 | 区分 1A |
| 生殖毒性 | 区分 1 |
| 特定標的臓器・全身毒性（単回曝露） | 区分 1　呼吸器系、腎臓、中枢神経系、全身毒性<br>区分 3　気道刺激性、麻酔作用 |
| 特定標的臓器・全身毒性（反復曝露） | 区分 1　呼吸器系、腎臓、肝臓<br>区分 2　神経系、血管 |
| 吸引性呼吸器有害性 | 区分 2 |
| その他の情報 | 液状のガスが皮膚に触れると、炎症や凍傷を起こす恐れがある。 |

## 12. 環境影響情報

環境に対する有害性

| | |
|---|---|
| 水生環境急性有害性 | 情報なし |
| 水生環境慢性有害性 | 情報なし |

## 13. 廃棄上の注意

廃棄する場合には、ガスを完全に抜いた後に行う。

| | |
|---|---|
| 残余廃棄物 | ガスを完全に抜いた後の内容液は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託するか、または容器に穴を開け、珪藻土等に吸着させて開放型の焼却炉で少量ずつ焼却する。本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することはしてはならない。 |
| 汚染容器及び包装 | 中身を使い切ってから分別廃棄する。 |

## 14. 輸送上の注意

「7. 取扱い及び保管上の注意」の項を参照のこと

| | |
|---|---|
| 輸送の特定の安全対策及び条件 | 運搬時には容器を 40℃以下に保ち、転倒・落下・衝撃・損傷等がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 |
| 陸上輸送 | 消防法ほか法令の輸送について定めるところに従う。 |
| 海上輸送 | 船舶安全法に定めるところに従う。 |
| 航空輸送 | 航空法に定めるところに従う。 |
| 国連分類 | IMDG コード class2.1 |
| 国連番号 | 1950 |

## 15. 適用法令

| | |
|---|---|
| 高圧ガス保安法 | 適用除外（液化ガス・可燃性ガス）<br>但し、政令告示並びに高圧ガス保安一般規則規定に従う。 |
| 消防法 | 第 4 類アルコール類　危険等級 II |
| 労働安全衛生法 | 危険物・引火性のもの<br>通知対象物質（エタノール、イソプロピルアルコール、二酸化ケイ素）<br>表示対象物質（イソプロピルアルコール）<br>※ 表示対象物質：メチルエチルケトンは配合量 1%未満の為、除外する。<br>※ 通知対象物質：メチルエチルケトンは配合量 1%以下の為、除外する。 |
| 有機溶剤 | 第 2 種有機溶剤（イソプロピルアルコール） |
| 船舶安全法 | 高圧ガス、低引火点引火性液体 |
| 航空法 | 高圧ガス、低引火点引火性液体 |
| 危険物船舶運送及び貯蔵規則 | IMDG コード class2.1（UN No. 1950） |
| 毒物及び劇物取締法 | 劇物（メチルエチルケトン） |
| 大気汚染防止法 | 有害大気汚染物質（メチルエチルケトン、ジメチルエーテル） |
| PRTR 法 | 該当しない |

## 16. その他の情報

[参考文献]　各種配合物の MSDS
化学物質管理促進法対象物質全データ
労働安全衛生法対象物質全データ
毒物及び劇物取締法対象物質全データ

危険有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意してください。
記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基いて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保障をなすものではありません。
また、記載事項は通常の取り扱いを対照としたもので、特別な取り扱いをする場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。
この情報は新しい知見及び試験等により改訂されることがあります。
この製品安全データシートは日本国内向けに作成したものですので、無断での翻訳及び海外向けの交付はご遠慮下さい。
製品を海外に輸出する場合には、仕向け国の法令・規制等について事前にご確認下さい。